

地域を つなぐ人

【伊勢】御浜町の丸山俊明さん(60)は現在、約100アールで「カラマンダリン」や甘夏、温州ミカン7品種を栽培している。

丸山さんは就農前、東京で会社勤めをしていたが、36歳の時に両親を手伝う形でかんきつ栽培を始めた。15年前に父から経営を受け継ぎ、農地を譲り受けながら面積を増やしてきた。

御浜町

丸山 俊明さん(60)



タブレット端末を手に笑顔の丸山さん

「カラマンダリン」は、春に花が咲いてから翌年の3月下旬までは、長い期間を樹上で育てるため、気候の影響を受けやすく、冬を越すために果実への袋かけは必須だ。栽培は難しいが、長い間、養分をためることで濃厚な甘さと酸味のバランスの良さが特徴。栽培方法と高い品質が評価され、三重ブランドにも認定されている。

丸山さんは三重南紀カラ部会で部会長を務め、情報通信技術(I

ブランド力高めたい

CT)の活用を推進する。部会員同士や関係機関とのより良い情報共有のために旅行用のアプリ上に園地の場所や着果数、樹勢、袋かけ状況、糖度や酸度も記録して、生産状況を把握しやすくしたいという。

今後について「ブランド力を高めたい。市場から高い評価を頂き、三重ブランドにも認定されているが、まだまだ、カラマンダリンという名前が広まっていないのが現状。多くの人においしさを知ってもらいたい」と話す。